

TOKYO 2020 パラリンピック 公式種目「ボッチャ」体験

【大田市立久屋小学校:PTA 研修部】

ねらい

オリパラ教育の視点に立って教育活動を展開する

いつ

令和元年 10 月 24 日 (木)

どこで

大田市立久屋小学校

だれが

全校児童・教職員・保護者

※講師

安部 晶 氏 [県障害者スポーツ指導者協議会]

三神 拓郎 氏 [県障害者スポーツ協会]



なにを

パラリンピック公式種目「ボッチャ」

概要

- 人権・同和教育に関する授業の公開にあわせ、PTA 研修部主催による研修会を実施。
- 児童・保護者・教職員と一緒に「ボッチャ」を体験。東京 2020 大会への機運醸成、福祉教育・理解教育の推進につなげる。



- ・ボッチャは以前から気になる競技でした。指導員の方の丁寧なご指導でルールがとてもよく理解できました。
- ・ボッチャを経験することを通して、障がいを抱えていてもスポーツをすることができること、パラリンピックで活躍していることがわかりました。親子共々パラスポーツに対する理解が深まりました。
- ・ルールなど細かく教えていただき、ボッチャは簡単そうに見えて頭を使う面白いスポーツだと知りました。子供たちがこのスポーツを通して、障がいのあるなしに拘らず、一緒に楽しむ機会が増えるといいと思いました。

【保護者の感想より】

- ・はじめてだったからとても楽しかったです。また今度、パラリンピックとオリンピックの選手を応援したいと思いました。
- ・簡単だろうと思っていたけど、意外に難しかったです。手も動かさない車いすの方のやり方も教えてくださったので、よくわかりました。パラリンピックを見ようと思いました。選手の人にはがんばってほしいです。
- ・障がいのある人は、滑り台みたいなものを使ってすると知り、その使い方も難しいと思いました。パラリンピックの大変さや、障がいのある人の大変さなどがわかりました。また、ボッチャをしたいと思いました。

【児童の感想より】



この日のためにルールを勉強した教職員が審判をしたり、『I'm possible』の教材で学習をしたりと、当校のオリパラ教育の取組は着実に進んでいます。また、学校の中だけでなく、家庭や地域にも広がりを見せ始めました。

講師から「どんな人でも楽しめるスポーツ。どんな工夫があるか、知ってほしい。」という説明から始まった研修。子供たちのガッツポーズ、一緒に歓声を上げる保護者の姿が印象的でした。